

⑥ フッ素・昨日・今日・明日

少子高齢化とフッ素

いる。再石灰化に重要な唾液の分泌が減少し、う蝕のリスクがさらに高くなっている人も少なくない。抗コリン剤や抗うつ剤を始めとする唾液分泌を抑制するような薬物の服用も大きな要因となっている。

ているほど診療費が低いことが報告されている。すなわち、口腔の健康が全身の健康に寄与し、さらには老人医療費の適正化に貢献できる可能性がある。

誤嚥性肺炎の予防手段として口腔ケアが重要であることは社会に浸透しつつあるが、高齢者に対するう蝕予防対策は十分であるとは言えない。訪問診療で多くの要介護者や入院患者に関わってきたが、寝たきり状態になった後、数カ月間に多くの歯が根面う蝕で破折し、残根状態になってしまったケースをたくさん経験してきた。8020を目標として掲げるのであれば、達成できた人々、あるいは達成できなくとも努力してきた人々の歯を、例えばその人が脳卒中で倒れても、ひどい認知症になっても、生涯とおして守るのが我々の使命ではなからうか。

高齢化率は現在20.0%、2025年には28.7%、そして2050年には35.7%になると推測されているように、しばらくは増加の一途を辿る。同時に、増え続ける老人医療費の問題、高齢者介護に関する様々な課題が山積している。

介護の必要な高齢者も増え続け、平成12年の介護保険スタート時には200万人余であった介護保険受給者は現在400万人を超えている。当然、自身で口腔をケアできない人たちが多い。8020運動の推進に伴い、歯を有する高齢者は増加している一方で、う蝕のハイリスク者も増加して

いる。最近、高齢者の口腔状況と医療費の関係に関するレポート分析調査が各地で行われている。保有歯数が多いほど、健全歯数が多いほど、また咀嚼機能が保たれ

さて、フロリデーション(水道水フッ化物イオン濃度調整)は、小児から高齢者、障害者まで全ての人々に対して最小限の努力でう蝕を防ぐことができる公衆衛生施策である。さらに、最近の中国での調査によると、う蝕予防に最適である濃度の飲料水を飲用している地区では、骨折の発症が少ない。世界で最も速いスピードで高齢化が進んでいる我が国においても導入を具体的に考える時期が来ているのではないか。地域社会に責任を持ち、地域住民から信頼される専門家団体としてフロリデーションを推進していただきたい。

歯科医師法第1章、総則、第1条には「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」とある。

(文責・日歯地域保健委員会)